

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（学術）	氏名	紀 勇振
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目 東北における中国共産党の宣伝戦略（1945－1953）—ソ連に関する宣伝を中心に—			
論文審査担当者			
主 査	教授	丸田 孝志	
審査委員	教授	水羽 信男	
審査委員	教授	市川 浩	
審査委員	教授	飯塚 靖(下関市立大学)	
〔論文審査の要旨〕			
<p>紀勇振の論文は、第二次世界大戦終結後から中華人民共和国成立初期までの中国共産党(以下、共産党)によるソ連に対するイメージについての宣伝戦略の変遷を検討したものである。特に旧ソ連文書の公開以降、この時期の中ソ関係に関する実証的な研究は飛躍的に進展しているが、紀勇振の研究は、新聞史料や内部史料などを駆使して、共産党が政治情勢の変化とその政治的必要性に応じて、政権にとって望ましいソ連のイメージを社会に浸透させようとした過程を、可能な限り社会の反応とも対応させて分析したことに特徴がある。</p> <p>第1章は、第二次大戦終結直後から内戦の全面勃発までの時期を対象に、共産党の正当性の主張を巡る宣伝戦略を分析している。共産党はソ連に対する全面賛美によってソ連軍の略奪、暴行を隠蔽した他、ソ連式の社会主義社会の経済的繁栄、政治的民主主義、人民の幸福な生活のイメージを強調し、東北民衆に対して、このようなソ連のイメージを、共産党の指導する中国の将来像として提示した。しかし、反ソ愛国運動の全国的な展開とソ連軍の撤退を受けて、共産党は東北抗日聯軍の抗日の功績を自身の政権の正当性の中心に据える方針へと転換し、国民党の「不抵抗政策」の「罪状」を拡大して宣伝するようになった。</p> <p>第2章では国共内戦期の北満根拠地における宣伝について検討した。共産党は基層幹部や共産党系団体人員を対象に、米国が世界の平和を破壊する元凶であり、ソ連が世界民主勢力の後盾であると宣伝し、米国とその同盟者の脆弱さとソ連の強大さを対照的に強調した。『東北日報』はソ連からの情報を大量に掲載しており、モスクワ放送などの露骨な共産党支持の報道を転載していた。更に共産党は、中ソ友好協会主催の展覧会や東北電影製片廠によるソ連映画の放映などを通して、一般民衆を対象に娯楽・文化を中心としたソ連宣伝を展開した。47年以降の北満拠地におけるソ連についての宣伝は、根拠地の政権建設という現実的な要請に応じて、主体的にソ連に学ぶことを強調するもので、人民共和国のソ連宣伝の基礎となった。</p> <p>第3章では、中華人民共和国成立初期のソ連との同盟関係の確立・強化とソ連についての宣伝について検討した。共産党は「向ソ一辺倒」の外交政策の下、モスクワでの会談で様々な矛盾を回避しながら、ソ連との同盟関係を確立した。共産党は、「向ソ一辺倒」政策に対して疑いや不満を持つ一般民衆に対し、中国側に不利な条約の内容を公表せず、東北の主権を回復したというような新政権に有利な条約の内容のみを宣伝して、民衆の理解を勝ち取ろうとしてい</p>			

た。共産党はこの時期に構築された通信員制度および宣伝網を通じて、ソ連の強大さや先進性を宣伝し、ソ連との同盟の必要性を強調した。

共産党はソ連人専門家に依拠して経済建設を推進し、東北では朝鮮戦争の銃後基地という地域の特殊性に基づいて、全国に先駆けて「ソ連に学ぶ」運動を展開した。しかし、強制的な政治運動の展開は、一般民衆、特に青年学生と知識人の強い不満を招いた。

紀の論文は、東北の民衆に蓄積されたソ連に対する民族的感情が、政権の宣伝によっても払拭されず、中ソ対立後の反ソ感情の再燃に繋がっていくことを長期的視点で明らかにした他、共産党の宣伝戦略と正当性構築の手法を中央、地方局、基層レベルに分けて世論の動向とともに立体的に分析しており、その統治手法を解明する上での貴重な成果を上げている。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。